

2019 年度事業報告

〈2019 年度の組織体制〉

館長 小野田俊蔵（歴史学部教授）

研究協力者 安藤佳香（歴史学部教授）、大谷栄一（社会学部教授）、齊藤隆信（仏教学部特別任用教員（教授））、佐古愛己（歴史学部准教授）、中島小乃美（保健医療技術学部准教授）、宮澤知之（歴史学部教授）、八木 透（歴史学部教授）

兼任学芸員 齊藤利彦（歴史学部教授）

専任学芸員 熊谷貴史（契約専門職員）、長谷川奨悟（契約専門職員）

事務局 山口 乾（課長）

土本頌子（4・9・23 月、派遣職員）、西田和美（10・1 月、派遣職員）

1. 展示、展示関連講演会

2019 年 4 月 1 日（月）～4 月 27 日（土）〈24 日間〉（日曜休館）

平常展示「祈りと祀り、そして暮らしー宗教文化研究への誘いー」

第一・第二展示室、入場無料

来館者：75 名

第一展示室では、嵯峨大念佛狂言保存会より当館に寄託されている古面を中心に、嵯峨大念佛狂言（国指定重要無形民俗文化財）で使用されてきた衣装や小道具などを展示した。第二展示室では、本学園部校地開発の際に行われた学術調査によって出土した考古遺物とその調査記録資料を展示した。

2019 年 5 月 25 日（土）～6 月 30 日（日）〈33 日間〉（月曜休館、5/27 は開館）

春期特別展「ほとけの手ー黙して大いに語るー」

第一展示室、入場無料 ※第二展示室では平常展示として大学史関係資料を展示。

来館者：901 名

「ほとけの手」は雄弁である。仏の身体的特徴とされる、いわゆる「三十二相」にも手に関する要素があり、しばしば造形に反映されてきた。また両手十指でさまざまな形を構成する「印相」は、尊名を判別する指標として、あるいは仏尊の行為や教えを示す象徴として広く知られる。音声を伴わない仏像・仏画にあっては、まさしく「口」以上にものをいう部位、といっても過言ではない。本展では、そのような「ほとけの手」に込められた思想を紐解きながら、造形された「ほとけの手」の表情に眼を向けた。優しくさしのべられた手、太くたくましい腕、そして繊細な指先。また構造や制作工程など

を含め、少しマニアックな宗教文化の世界を紹介した。

2019年6月15日(土) 14:00~17:00

春期特別展関連ワークショップ「ほとけの手について一黙さず大いに語る、そして描く」

会場：宗教文化シアター(入場無料)

来館者：92名

講演：熊谷貴史(学芸員)

ワークショップ：リシャンツェラン(佛教大学大学院生)

春期特別展「ほとけの手一黙して大いに語る」の魅力について、展示を企画した熊谷学芸員による講演、チベット人留学生のリシャンツェラン氏による「ほとけの手を描く」ワークショップを通じて紹介した。

2019年7月13日(土)~7月31日(水)〈15日間〉(日曜・祝日休館)

2019年9月2日(月)~9月30日(月)〈23日間〉(日曜・祝日休館)

平常展示「祈りと祀り、そして暮らしー宗教文化研究への誘いー」

第一・第二展示室、入場無料

来館者：7月152名、9月124名

第一展示室では、本年度より開始した、当館が所在する嵯峨野地域の歴史や文化を紹介する「嵯峨野学事始」の一環として、当地域を代表する民俗芸能である嵯峨大念佛狂言、嵯峨野六斎念仏に関する資料のほか、近世・近代の古地図や地誌、絵葉書などの歴史資料を展示した。第二展示室では、本学園部校地から出土した考古遺物と調査記録資料を展示した。

2019年10月19日(土)~12月7日(土)〈45日間〉(月曜休館、10/21・28は開館)

秋期特別展「チベット密教の美と祈りー北村コレクションよりー」

第一・第二展示室、入場無料

来館者：1,643名

チベット密教の造形世界は、日本の仏教美術とは異質の「美」を宿している。インドの後期密教を受け入れ、タントラ仏教の最終的な発展段階である無上瑜伽タントラを基盤に生み出された芸術作品は、ときに奇異な側面が強調され、邪悪で危険なイメージで捉えられることも多い。それまでの仏教美術では採られなかった危険な「美」の表現法。それらは、どう美しいのか？ 本展では、密教学者、北村太道氏によって蒐集された仏像・タンカ・法具などを通じ、チベット密教の世界観と魅力を紹介した。

2019 年 11 月 16 日（土）14:00～17:00

秋期特別展関連講演会「チベットの宗教文化にみるいのち」

会 場：宗教文化シアター（入場無料）

来館者：120 名

講 師：中島小乃美（本学保健医療技術学部准教授、研究協力者）

ワークショップ：ゴベル・リンポチェ（デブン・ゴマン学堂）

小野田俊蔵（本学歴史学部教授、館長）

ワークショップ通訳：野村正次郎（一般社団法人文殊師利大乘仏教会代表理事）

秋期特別展「チベット密教の美と祈り－北村コレクションより－」の魅力について、展示をコーディネートした中島小乃美准教授による講演、チベット僧ゴベル・リンポチェによるワークショップを通じて紹介した。

2020 年 1 月 6 日（月）～1 月 31 日（金）〈23 日間〉（日曜・祝日休館）

平常展示「祈りと祀り、そして暮らし－宗教文化研究への誘い－」

第一・第二展示室、入場無料

来館者：69 名

第一展示室では「嵯峨野学事始」として嵯峨大念佛狂言保存会寄託資料を中心に嵯峨野の歴史と文化を紹介した。さらに、第 42 回シアター公演関連展示として、淡路人形座の協力を得て淡路人形浄瑠璃の人形・衣装を展示した。第二展示室では、本学園部校地より出土した考古資料と旧前川家資料の中の民俗資料を展示した。

2020 年 2 月 15 日（土）～3 月 31 日（火）〈37 日間〉（日曜・祝日休館）

冬期企画展「矢吹慶輝が遺した研究資料」

第一展示室、入場無料 ※第二展示室では平常展示を継続

明治期から昭和初期にかけて活躍した仏教学者、「矢吹慶輝」。彼が遺した研究資料が、2018 年度に当館に移管された。推敲が重ねられた原稿類、幅広い交友を示す書簡類、愛用した旅行鞆などをあわせ、膨大な彼の仕事と、そこに垣間見える人となりを紹介した。

※3 月 3 日（火）～3 月 16 日（月）は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ、臨時休館とした。



図 1-1 春期特別展チラシ



図 1-2 秋期特別展チラシ



図 1-3 冬期企画展チラシ



図 1-4 春期特別展 展示風景



図 1-5 秋期特別展 展示風景

2. シアター公演、シアター上映会

2019 年 6 月 2 日（日）14:00～17:00

第 40 回シアター公演「民俗芸能を担う若者たち－嵯峨大念佛狂言の若手育成－」

会 場：宗教文化シアター（入場無料）

来館者：126 名

出 演：嵯峨大念佛狂言保存会（国指定重要無形民俗文化財）

解 説：芳野 明 氏（嵯峨美術大学芸術学部教授、嵯峨大念佛狂言保存会）

八木 透（本学歴史学部教授、研究協力者）

いま、日本各地に伝承されてきた民俗芸能や伝統行事が、地域の再開発や少子高齢化等の要因によって担い手が不足し、継続の実施が難しくなり、日本各地で無形民俗文化財の継続・伝承のあり方や後継者育成をめぐる問題が顕著化している。そこで、この問題を身近な問題として考えるきっかけとするために、地域コミュニティがどのように後継者を育てているのかについて、公演やワークショップと共に取り組みを紹介する「民俗芸能のネクストジェネレーションズ」というシリーズ公演を企画した。第 1 回目の公演では、1960 年代に一度中断するも保存会を結成して復活され、1989 年に「嵯峨狂言クラブ」というこども狂言の団体を立ち上げて次世代を担う若手育成に取り組んでいる「嵯峨大念佛狂言保存会」の取り組みを紹介した。

2019 年 10 月 20 日（日）14:00～17:00

第 41 回シアター公演「音楽のクロスロードーアンデス音楽とカホンー」

会 場：宗教文化シアター（入場無料）

来館者：134 名

出 演：中山拓人 氏（カホン奏者） 他

解 説：中山拓人 氏

斉藤利彦（本学歴史学部教授、兼任学芸員）

かつて当館では「世界の音楽 日本音楽」というシリーズ公演を行い、さまざまな地域の、さまざまな領域の〈音楽〉を通じて、宗教文化に関する“学び”を提供してきた。今回、数年ぶりに音楽をとりあげる「音楽のクロスロード」というシリーズ公演を企画することになり、第 1 回目として、これまでにとりあげてこなかった「中南米」地域の音楽、とりわけペルーでは「お国の楽器」として認識されている打楽器カホンが奏でる音楽を、演奏と解説で紹介した。

2019年12月7日（土）14:00～16:30

シアター上映会「大善寺玉垂宮 鬼夜 一討伐され祀られる鬼たち」

会場：宗教文化シアター（入場無料）

来館者：92名

上映映像：九州国立博物館映像アーカイブス「大善寺玉垂宮の鬼夜」

（福岡県立アジア文化交流センター提供、2007年制作）

解説：八木 透（本学歴史学部教授、研究協力者）

大善寺玉垂宮（福岡県久留米市大善寺町）の鬼夜は、毎年1月7日の夜に行う追儺の祭事である。国の重要無形民俗文化財に指定され、現在では日本三大火祭りの一つとして知られ、日本一といわれる大松明6本を裸の若者たちが担ぐ「大松明回し」が見どころとされる。

今回の上映会では、鬼夜の上映映像と解説を通じて祭礼の様子と習俗、日本における「鬼」が担う性格や死霊祭祀の特徴を紹介した。

2020年1月26日（日）14:00～17:00

第42回シアター公演「淡路人形浄瑠璃の世界」

会場：宗教文化シアター（有料公演：鑑賞料1000円）

来館者：157名

出演：淡路人形座（国指定重要無形民俗文化財）

解説：斉藤利彦（本学歴史学部教授、兼任学芸員）

コーディネート：八木 透（本学歴史学部教授、研究協力者）

人形浄瑠璃は、江戸時代以降、歌舞伎とともに人気を集めた伝統芸能である。1976年に国指定重要無形民俗文化財に指定された淡路人形浄瑠璃は500年の伝統をもち、最盛期の18世紀前半頃には40をこえる人形座が存在し、全国を巡業するなかで各地に淡路系人形浄瑠璃を伝えてきた。淡路人形座は、現在、淡路人形浄瑠璃の伝統を受け継ぐ唯一の座で、南あわじ市福良の常設館で毎日の定時公演がある。

今回の公演では、斉藤利彦（本学歴史学部教授）による芸能史からの解説と、淡路人形座による講座（太夫・三味線・人形の解説、「戎舞」の公演）という解説と実演のプログラムで淡路人形浄瑠璃の奥深い世界を紹介した。



図 2-1 6/2 公演チラシ



図 2-2 10/20 公演チラシ



図 2-3 12/7 上映会チラシ



図 2-4 1/26 公演チラシ

3. 講演会、シンポジウム

2020年2月8日(土) 14:00~17:00

シンポジウム「現代日本の戒律と生活倫理」

会 場：宗教文化シアター（入場無料）

来館者：32名

講 師：大谷 栄一（本学社会学部教授、研究協力者）〈コーディネーター〉

佐藤 哲朗（日本テラワダ仏教協会編集局長）

鈴木 正一（宗教法人天理教職員）

アルコチ・ルザ（日本トルコ民間友好協会アドバイザー）

小野田俊蔵（歴史学部教授、館長）

さまざまな宗教においてどのような戒律や禁忌、生活倫理が存在し、現代生活と宗教的禁忌をどのように捉えているのか。テラワダ仏教、天理教、イスラム教をとりあげて考察した。



図3 シンポジウムチラシ

4. その他の学術講座

2019 年 8 月 31 日（土）10:30～12:00

佛教大学四条センターとの連携講座「大念仏狂言を知る」

会 場：佛教大学四条センター（入場無料）

来場者：190 名

講 師：柿本雅美（大津市文化財保護課技師、元宗教文化ミュージアム学芸員）

5. 研究協力者

ミュージアムの展示・公演・シンポジウムにむけた研究を以下の研究者が実施した。

氏名	研究部門	所属	研究課題
安藤 佳香	①シルクロード ②浄土宗文化	歴史学部教授	①中国・新疆地域の造形作品にみる線描とエネルギー形象の研究 ②8～11 世紀における木彫仏の調査研究－浄土宗寺院伝来像を中心として
大谷 栄一	歴史文化	社会学部教授	現代社会における宗教の戒律と生活倫理に関する実証研究
齊藤 隆信	浄土宗文化	仏教学部特別任用教員（教授）	浄土宗と戒律
佐古 愛己	歴史文化	歴史学部准教授	広沢池を中心とする平安京北西部郊外の歴史と文化に関する基礎的研究
中島小乃美	シルクロード	保健医療技術学部准教授	チベット仏教文化圏インド・ラダック地方の葬送儀礼にみる命
宮澤 知之	歴史文化	歴史学部教授	中国貨幣文化経済史の研究
八木 透	歴史文化	歴史学部教授	現代日本の民俗信仰と民俗芸能をめぐる調査研究

6. 博物館実習生の受け入れ

2019 年 8 月 22 日（木）、8 月 26 日（月）～8 月 29 日（木）の日程で、本学通学課程から実習生 9 名を受け入れた。資料の取扱方法など基本事項を確認のうえ、展示に向けた諸作業を実践的に学習した。実習生による成果の一部を 9 月 2 日～30 日の平常展示に反映した。

7. 地域連携・社会貢献活動

(1) ミュージアム体験学習会

近隣小学校の小学 6 年生を対象としたミュージアム体験学習会を開催した。宗教文化ミュージアム学芸員の熊谷貴史、長谷川奨悟が担当し、近隣の古墳のお話、展示見学、粘土を使用した「勾玉」作りを体験した。

日時	参加校	参加者
2019年5月10日(金) 9:00~10:30、10:30~12:00	京都市立嵯峨小学校	児童74名、引率教員4名
2019年7月16日(火) 10:00~11:30	京都市立広沢小学校	児童58名、引率教員3名

(2) 京都・大学ミュージアム連携

2019年8月24日(土)~12月7日(土)、「第8回京都・大学ミュージアム連携スタンプラリー」に参加した。

(3) 京都市内博物館施設連絡協議会

2019年7月13日(土)~9月16日(月)、国際博物館会議(ICOM)京都大会開催イベントに参加した。

2020年1月22日(水)~3月22日(日)、「第24回京都ミュージアムロード」に参加した。

(4) 佛教大学ホームカミングデー

2019年11月2日(土)開催の「第10回佛教大学ホームカミングデー」にあわせて、11月1日~3日、本学1号館1階エントランスにて、パネル展示「チラシでたどる宗教文化ミュージアムの10年」を開催し、過去10年間のシアター公演・シアター上映会を紹介した。

(5) 浄土宗寺宝めぐりツアー

一般人を対象に、京都市近辺数箇所の浄土宗を中心とする寺院を大学マイクロバスで巡り、ミュージアム学芸員が添乗して解説を行う。熊谷貴史学芸員が解説を担当した。

第2回 2019年9月21日(土) 13:00~17:30

二条キャンパス → 清凉寺見学 → 宗教文化ミュージアム見学 → 浄福寺見学
→ 二条キャンパス解散

第3回 2020年2月29日(土) 13:30~17:00 [開催中止]

二条キャンパス → 紫野キャンパス礼拝堂見学 → 西向寺見学 → 大幸寺見学
→ 二条キャンパス解散

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ、開催を中止した。